

令和4年度第2回群馬県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
運営協議会開催概要

1 開催日時 令和5年2月9日(木) 13:30~15:00

2 開催場所 群馬職業能力開発促進センター会議室

3 主な議題

- ・令和4年度事業実施状況について
- ・令和5年度事業計画について
- ・その他

4 議事経過

資料に沿って事務局から説明が行われた後、意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり。

(令和4年度事業実施状況について)

・離職者数全体の母数が減少傾向にある背景のもと、群馬職業能力開発促進センターとして一定の就職率をあげていただいていることは評価に値する。

(令和5年度事業計画について)

・社会的にDXの推進というのは大きなムーブメントである。特に中小企業であればこそ、遅れをとるとその後の競争力を失ったり生産性を低めたりするため、より一層いち早く中小企業に支援が入り、それを利用してもらうことが、県内の中小企業の活性化にとって重要である。しかし、生産性向上支援訓練の実績を見ると経営者の方々の認識がまだ低い。手が回らないということもあると思料されるが、まだDXの意義やメリットが十分に伝わっていないところもあると考えていたため、人材開発支援助成金制度が利用できたりして機構と労働局で連携が図れるようになると、令和5年度はDX対応コースの目標値が50人上がる場所であるが、目標値到達への推進力になるのではないか。

・広報戦略もWebページで情報を見てもらう方法から直接届けに行く方法まで様々なやり方がある。リソースが分散してしまうとそれだけ仕事が増えて効果が薄くなると思われるため、効果が届くようなやり方で広報のリソースを集中させるのが良いのではないかと。

・日本企業の生産性が低い理由は、企業に余裕がなく、なかなかリスクリングに取り組めていないことが原因ではないかという報道を目にしたことがある。群馬職業能力開発促進センターは能力開発の事業を行っているので、是非リスクリングに力を入れて取り組んでいただきたい。

・離職者訓練の一部の科の名称を令和5年度から変更するとの説明があり、CADものづくりサポート科については、「女性向けコース」という表示を令和5年度から外すと伺った。昨今、当該表示を外すことについてはやむを得ないと思料されるが、女性のもものづくり分野への進出については、群馬県としても促進していく必要がある。

令和4年度第2回群馬県独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
運営協議会 委員名簿

区 分	氏 名	所 属 及 び 職 名
学識経験者 (3名)	飯島 明宏 (会長)	高崎経済大学地域政策学部 教授
	斉藤 誠	株式会社上毛新聞社 取締役 読者局長
	鈴木 良幸	一般社団法人群馬県専修学校各種学校連合会 会長
労働者代表 (2名)	越澤 恭行	日本労働組合総連合会群馬県連合会 高崎地域協議会 議長
	山村 康郎	日本労働組合総連合会群馬県連合会 副会長
中小企業等代表 (4名)	大澤 伸一郎	群馬県中小企業団体中央会 専務理事
	坂庭 秀	一般社団法人群馬県商工会議所連合会 専務理事
	樋口 努	群馬県商工会連合会 専務理事
	村井 一雄	太田機械金属工業協同組合 副理事長
行政機関 (3名)	青野 純	群馬労働局 職業安定部長
	瀧本 和正	高崎市商工観光部 産業政策課長
	丸山 康治	群馬県産業経済部 労働政策課 産業人材育成室長